

日本文学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 Semester	開講曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
日本文学概論	王朝物語文学の世界	2	横溝 博	3	前期 金曜日 3講時	国文学概論
日本文学概論	日本近現代文芸の世界	2	仁平 政人	4	後期 金曜日 3講時	国文学概論
日本文学基礎講読	『徒然草』を読む	2	佐倉 由泰	3	前期 金曜日 2講時	国文学基礎講読
日本文学基礎講読	『天徳内裏歌合』を読む	2	横溝 博	4	後期 金曜日 2講時	国文学基礎講読
日本文学各論	『源氏物語』の成立と展開	2	横溝 博	5	前期 月曜日 2講時	国文学各論
日本文学各論	『平家物語』の研究	2	佐倉 由泰	5	前期 火曜日 2講時	国文学各論
日本文学各論	江戸の雅俗	2	神作 研一	集中(5)	集中講義	国文学各論
日本文学各論	冷戦期文学の諸問題	2	仁平 政人	6	後期 月曜日 2講時	国文学各論
日本文学各論	『平家物語』の研究	2	佐倉 由泰	6	後期 火曜日 2講時	国文学各論
日本文学演習	『源氏物語』の研究	2	横溝 博	5	前期 月曜日 4講時	国文学演習
日本文学演習	近現代文学における 〈生き物〉表象	2	仁平 政人	5	前期 水曜日 2講時	国文学演習
日本文学演習	『今昔物語集』の研究	2	佐倉 由泰	5	前期 木曜日 2講時	国文学演習
日本文学演習	『今昔物語集』の研究	2	佐倉 由泰	6	後期 木曜日 2講時	国文学演習
日本文学演習	『源氏物語』の研究	2	横溝 博	6	後期 月曜日 4講時	国文学演習
日本文学演習	近現代文学における 〈生き物〉表象	2	仁平 政人	6	後期 水曜日 2講時	国文学演習

科目名：日本文学概論／ Japanese Literature (General Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：横溝 博

コード：LB35301, 科目ナンバリング：LHM-LIT201J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：王朝物語文学の世界

2. Course Title (授業題目) : World of Ōchō Monogatari: tales of the Heian and Kamakura periods

3. 授業の目的と概要：日本の物語文学はいつ発生し、いつ終息したのか——。本講義では『源氏物語』に代表される王朝物語文学の成立と展開の様相を、物語文学を取り巻く様々な文芸ジャンルとの相関のもとに、種々の作品テキストを取り上げつつ探っていく。王朝物語の時代は平安から室町と長きにわたるが、とりわけ王朝物語という文芸ジャンルが物語作者の存在意義とも絡んで取り沙汰されるようになる院政期から鎌倉中期を中心に、散逸した物語の資料をも重要な手がかりとしながら、物語文学というコンテンツの消長を探っていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : When did Japanese narrative literature emerge and when did it end? This lecture will explore the development of the Ōchō Monogatari (tales from the Heian and Kamakura periods), such as the Tale of Genji, by examining various texts of the works, in relation to various literary genres surrounding narrative literature. The era of the dynasty tales extends from Heian to Muromachi. This lecture also explore the fate of narrative literature, using lost stories as clues.

5. 学習の到達目標：(1) 日本の物語文学について、作品もしくはその断片、関連資料の分析を通して、その特質と史的展開に関する理解を深める。

(2) 古典作品を読解・鑑賞するに際しての基本的な知識を習得することで、王朝物語の文化史的意義について把握できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : (1) To deepen the understanding of the characteristics and historical development of Japanese literature through the analysis of works or fragments thereof and related materials.

(2) By acquiring the basic knowledge for reading and appreciating classical

7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下は本講義で扱うトピックスを列挙したものであり、実際の授業の順序もしくは進度とは異なる。

- 01 王朝物語史（現存物語、散逸物語）
- 02 前期物語（竹取物語、うつほ物語、落窪物語、住吉物語）
- 03 源氏物語（補作を含む）
- 04 後期物語（狭衣物語、夜の寝覚、浜松中納言物語）
- 05 院政期物語（海人の刈藻、とりかへばや、有明の別れ）
- 06 歴史物語（大鏡、栄花物語）
- 07 物語評論（無名草子、今鏡）
- 08 物語歌合（物語二百番歌合）
- 09 物語歌集（風葉和歌集）
- 10 中世王朝物語（鎌倉時代）
- 11 中世王朝物語（南北朝時代）
- 12 中世王朝物語（室町時代）
- 13 和歌と物語、歴史と物語、物語と絵画
- 14 物語の作者と読者（六条斎院物語歌合）
- 15 王朝物語の終焉（室町時代物語、お伽草子）

8. 成績評価方法：

学期末に提出するレポート [50%] とミニツツペーパー [50%] をもって評価する。なお、ミニツツペーパーは毎時間記載して提出するものである。

9. 教科書および参考書：

基本的にはプリントを使って授業を進める。参考書は授業の中で随時紹介する。なお、一度配布した資料は繰り返し使用するので、毎時間用意すること。樋口芳麻呂編『王朝物語秀歌撰(上) 物語二百番歌合・風葉和歌集上』(岩波文庫、1987)、同『王朝物語秀歌撰(下) 風葉和歌集下・源氏物語歌合』(岩波文庫、1989) は本講義のバイブル（但し購入を必須とするものではない）。

10. 授業時間外学習：作品を通読するのは困難としても、王朝物語史に関しては様々な学術書が存在するので、授業で紹介したのものも含めて、可能な限り手に取り、概要の把握に努めること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

本講義は第4セメスターも連続して履修することが望ましい。

科目名：日本文学概論／ Japanese Literature (General Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：仁平 政人

コード：LB45301, 科目ナンバリング：LHM-LIT201J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本近現代文芸の世界

2. Course Title (授業題目)：Study on Japanese Modern Literature

3. 授業の目的と概要：明治時代から第二次世界大戦中に至るまでの多様な小説を取り上げ、文化的・社会的な文脈を視野に入れて具体的に分析するとともに、テキスト分析の方法や、日本近現代文学の形成過程などについて概説を行う。
毎回の授業の終わりに、授業内容について考えたことや質問を提出してもらおう。次回の授業で、その回答や補足説明も行いながら授業を進める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this lecture, we will analyze a variety of literary works from the Meiji era to the Showa era, with a view to their cultural and social contexts.

5. 学習の到達目標：(1) 日本の近現代文学について、文化的・社会的な文脈を視野に入れて具体的な分析を行うことをとおして、その多様な特質に関する理解を深める。

(2) 文学テキストを分析する基本的な方法を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To understand the diverse characteristics of modern Japanese literature, including its relationship to cultural and social contexts.

(2) To learn basic methods of analyzing literary texts.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 分析のレッスン —志賀直哉「小僧の神様」
3. 概説①：日本近代文学の成立
4. 概説②：テキスト分析の方法
5. 樋口一葉「十三夜」を読む①
6. 樋口一葉「十三夜」を読む②
7. 田山花袋「少女病」を読む
8. 芥川龍之介「羅生門」の生成論
9. 横光利一「蠅」を読む
10. 江戸川乱歩「人間椅子」を読む
11. 葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」を読む
13. 検閲と文学
14. 太宰治「葉桜と魔笛」を読む
14. 岡本かの子「老妓抄」を読む
15. 文学と戦争—坂口安吾「真珠」を中心に

なお、質問への応答、補足説明などによって、予定通りに進まないことがあります。

8. 成績評価方法：

最終レポート (50%)・授業への出席 50%。毎時間提出するコメント用紙の内容も平常点の一部として加味する。

9. 教科書および参考書：

講義資料として、配布プリントを使用する。参考書等については教室で指示する。

10. 授業時間外学習：授業で取り上げる作品について、事前に精読しておくこと。また、授業を通して関心を持った問題については幅広く参考文献を読むこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本文学基礎講読／ Japanese Literature (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

semester：3 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰

コード：LB35201, 科目ナンバリング：LHM-LIT212J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『徒然草』を読む
2. Course Title (授業題目)：Study on “Essays in Idleness (徒然草 Tsureduregusa)”
3. 授業の目的と概要： 文学表現（古文）を読み解くには何に注意し、何に注目し、どのような手順で考察を進めればよいのかということ、『徒然草』の表現の調査、分析、報告、討議を重ねる中で理解して行く。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this seminar, you will understand what to learn and think about Japanese classical literature through practice of reading and interpreting “Essays in Idleness (徒然草 Tsureduregusa)”.
5. 学習の到達目標：(1) 変体仮名の文を読み解けるようになる。
(2) 多様な辞書、事典が活用できるようになり、必要な文献も適切に探せるようになる。
(3) 写本の文化を理解し、諸本間の本文の相違に注目して、精度の高い表現の読解ができるようになる。
(4) 作品を発見的に解釈するためには、表現の細部の読解がいかんたいせつかということ考察の実践を通して理解する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students acquire knowledge and ability necessary to think about Japanese classical literature creatively.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 はじめに — 文学表現を読み解くために —
 - 2 『徒然草』を読むにあたって
 - 3 変体仮名を読むために
 - 4 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 5 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 6 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 7 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 8 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 9 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 10 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 11 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 12 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 13 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 14 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 15 まとめ
8. 成績評価方法：

授業時の発表およびレポート [60%]・授業への参加 [40%]
9. 教科書および参考書：

教科書：小川剛生訳注『徒然草』（角川ソフィア文庫）、かな研究会編『実用変体がな』（新典社）
参考書：授業の中で随時紹介する。
10. 授業時間外学習： 授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

また、各回の講読、考察、意見交換の積み重ねの中で適切な段階を踏んで理解を深めて行く必要があり、そのためにも、必ず応分の予習をして毎回の授業に臨んでもらいたい。予習すべき内容については授業の中で説明するので、第1回の授業から出席し、その内容をよく理解すること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：日本文学基礎講読／ Japanese Literature (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：横溝 博

コード：LB45201, 科目ナンバリング：LHM-LIT212J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『天徳内裏歌合』を読む

2. Course Title (授業題目)：Read "Tentoku Dairi Uta-awase" (Imperial Palace Poetry Contest of the Tentoku era)

3. 授業の目的と概要：『天徳内裏歌合』について輪読と発表を繰り返し行う中で、古典作品の本文の立て方や注釈の付け方、考察の方法等について、実践的に学ぶことを目的とする。また古典作品の鑑賞について学習することを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course aims to practically learn how to make the text of a classic work, how to annotate it, and how to consider it, while repeatedly reading and presenting "Tentoku Dairi Uta-awase". It also aims to learn about appreciation of classical works.

5. 学習の到達目標：『天徳内裏歌合』を素材に、以下について学習することを到達目標とする

- (1) 変体仮名の読解と翻刻、校訂本文の作成、注釈など、古典文学研究のための基本的な作業・所作について、実践的に学ぶ。
- (2) 和歌をはじめとする古典文学についての理解を深めるとともに、古典文学を読み進めるために必要な文献など、情報収集の手段や方法についても知識を得、その活用の仕方についても学ぶ。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goal is to learn about the following using "tentoku Dairi Uta-awase" as a material.

(1) Practically learn basic tasks for classical literature research, such as reading comprehension of Hentaigana, writing texts, and annotations.

(2) To deepen the un

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス。授業内容の説明、各回の発表者の決定。
2. 『天徳四年内裏歌合』および歌合についての講義。変体仮名の読解練習の説明。
3. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
4. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
5. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
6. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
7. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
8. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
9. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
10. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
11. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
12. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
13. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
14. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
15. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習

8. 成績評価方法：

授業時の発表および期末レポートの内容 [50%]、授業への参加の度合い (出席・質疑応答) [50%]

9. 教科書および参考書：

教科書：萩谷朴，谷山茂校注『歌合集 (日本古典文学大系 74)』(岩波書店、1965年)。『実用変体仮名』(新典社)。

参考書：変体仮名の読解練習に用いる影印についてはプリントで配布する。その他、教場で指示する。

10. 授業時間外学習：事前に配布される発表資料に目を通し、質問事項を予め用意しておくこと。授業で扱う範囲外の部分についても、自学自習の上、作品内容の把握に努めること。また変体仮名のアプリを使う (遊ぶ) など、日常的に変体仮名の世界に触れること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

『天徳内裏歌合』は、後世、内裏歌合の模範として仰がれ続けた日本文化史上、記念すべき行事です。百人一首にとられた有名な和歌もあり、記録も豊富に残っていることから、行事の内容や規模をある程度、復元することができます。本イベントの内容について学ぶとともに、歌合という競技を追体験することで、和歌の鑑賞に役立てていきます。

科目名：日本文学各論／ Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：横溝 博

コード：LB51201, 科目ナンバリング：LHM-LIT301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『源氏物語』の成立と展開
2. Course Title (授業題目)：Establishment and Development of "The Tale of Genji"
3. 授業の目的と概要：『源氏物語』現五十四帖がいかんして構成されているか、成立の問題、巻序の問題をはじめ、散逸した巻（「桜人」「狭筵」「巢守」さらには「輝く日の宮」）についての『源氏釈』『奥入』等の記述を検証する。「輝く日の宮」の巻は存在したのか。また、定家本・河内本成立の過程と意義、別本の価値をも含めた諸本（写本群）についても考察する。『源氏物語』の初期の注釈書や梗概書、系図等にも目配りし、『山路の露』『雲隠六帖』といった補作、さらには平安～鎌倉・室町時代の物語作品における『源氏物語』受容の痕跡をも手がかりとして、平安から中世にかけて、どのような『源氏物語』テキストが流通していたのかを探る。その際、古筆切等、新発見の資料にも目配りしたい。文字テキスト以外に、院政期の『源氏物語絵巻』を、詞書とともに DVD で鑑賞する。復元プロジェクトによって、平安絵師の仕掛けた謎が現代に明らかとなるのか——。このような検証、思考を通して、広く「〈源氏物語〉とは何か」、を考えていくことを目的とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：We will examine how the "Genji Monogatari" is composed, the problem of establishment, the problem of the volume, and the description of the old commentary on the dissipated volume.
Furthermore, we will explore what kind of "Genji Monogatari" texts were in circulation from the Heian period to the Middle Ages, using supplementary works such as "Yamaji no Tsuyu" (sequel of The Tale of Genji) and Kumogakure Rokujo (Genji's demise: six chapters). In addition, we will watch "Genji Monogatari Emaki" on DVD.
Through such verification and thinking, we will think about "what is the Genji story".
5. 学習の到達目標：『源氏物語』の成立と展開、流布と継承、受容および享受の問題を広く学ぶことで、(1)『源氏物語』をめぐる文化の諸現象に対する理解を深め、(2)『源氏物語』を独力で鑑賞し、(3)テキストを批判的に読み解くための基本的な知識を身につける。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：By broadly studying the issues of establishment and development, dissemination and inheritance, acceptance and enjoyment of "Genji Monogatari", (1) deepening the understanding of various cultural phenomena surrounding "Genji Monogatari", (2) appreciating
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 01. ガイダンス。講義資料の事前配付。参考文献の紹介。
 02. 『源氏物語』の諸本の異同について。「桐壺」巻を例に考える。
 03. 「幻」巻の異文。ミセケチをめぐる『原中最秘抄』の諸説。
 04. 「柏木」巻の表現と国宝『源氏物語絵巻』の詞書。柏木像の後代への影響。
 05. 「桜人」について。『源氏釈』の逸文から復元する。
 06. 「かかやく日の宮」と並びの巻について。『奥入』の記述から考える。
 07. 藤原定家の『源氏物語』菟書活動と書写活動。『奥入』と『明月記』紙背から考える。
 08. 「巢守」について (1)。『源氏物語古系図』から復元する。
 09. 「巢守」について (2)。「古筆断簡』『風葉和歌集』から復元する。
 10. 『源氏物語』の構成について。『源氏物語』は五十四帖か。六十巻説、三十七帖説を考える。
 11. 『山路の露』について。補作の試みもしくは『雲隠六帖』。
 12. 『山路の露』を読む (1)。「序文」を読む。
 13. 『山路の露』を読む (2)。薫と浮舟の再会場面を読む。
 14. 『山路の露』を読む (3)。浮舟と手習歌。
 15. 『山路の露』を読む (4)。物語としての独自性。
8. 成績評価方法：
レポート (期末) の内容 [50%]、毎時間提出するミニットペーパーの内容 [50%]。
9. 教科書および参考書：
【教科書】『源氏物語補作 山路の露・雲隠六帖 他二篇』(今西祐一郎編注、岩波文庫、2022 年)
その他はすべてプリントを用いる。テキスト (岩波文庫) は大学生協で購入のこと。毎時間用意すること。参考文献は授業内で随時紹介する。Classroom を併用する予定。
10. 授業時間外学習：復習に力を入れること。『山路の露』については、授業で読む箇所以外についても、自分で読み進め、内容把握に努めること。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし
二年生でも関心のある人は単位にかかわらず受講されたい。

科目名：日本文学各論／ Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰

コード：LB52201, 科目ナンバリング：LHM-LIT301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『平家物語』の研究

2. Course Title (授業題目)：Study on “The Tale of Heike (平家物語 Heike Monogatari)”

3. 授業の目的と概要： 平安時代末の内乱とそこに生きる人々の姿を多様な形質の表現によって描き出した作品、『平家物語』の記述を考察する。『平家物語』の表現を丁寧に読み解き、文学、文化、社会にかかわる多様な問題を見出す中で、『平家物語』の特質とともに、そこに現れる世界観、人間観、社会認識のあり方を明らかにして行く。毎回の授業の終わりに、授業内容について、考えたこと、関心を持ったことを書いてもらい（これを「小レポート」と呼ぶ）、その回答も交えて、できるだけ対話的に授業を進めて行こうと思っている。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this lecture, you will understand the characteristics of the description of “the Tale of Heike (平家物語 Heike Monogatari)”. And you will consider various significant problems of literature and culture through reading the original of this classical tale.

5. 学習の到達目標：(1) 表現の細部を丁寧に捉えて、時代相、世相や筆者の世界観、人間観、社会認識を幅広く深く理解できるような読解力、洞察力を身につける。

(2) 文学、文化、社会を思考する上での問題発見力と専門的知識を高める。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students acquire knowledge and ability necessary to think about literature, culture and society creatively.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は次の順に進める

- 1 『平家物語』の特質と概要
- 2 『平家物語』の成立と諸本
- 3 序文のしくみと機能 — 巻第一「祇園精舎」より —
- 4 都をめぐる観念 — 巻第一「殿上閣討」より —
- 5 制度と祝祭 — 巻第一「禿髪」、「吾身栄花」より —
- 6 芸能と仏道 — 巻第一「祇王」より —
- 7 事実の置き換えが意味するもの — 巻第一「殿下乗合」より —
- 8 歴史叙述と祝祭性 — 鹿の谷事件をめぐる —
- 9 登場人物の形象の変移 — 藤原成親に着目して —
- 10 空間の多様な見え方 — 「きかいが島」に着目して —
- 11 登場人物の対照性 — 平清盛と平重盛 —
- 12 戦いの表現が指向するもの — 巻第四「橋合戦」より —
- 13 都をめぐる観念 — 福原遷都をめぐる —
- 14 「悪」の表現が意味するもの — 平清盛の形象 —
- 15 まとめ

8. 成績評価方法：

学期末に提出してもらおうレポート [60%]・小レポート [40%]

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを使って授業を進める。参考書は、授業の中で随時紹介する。

10. 授業時間外学習： 授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

本講義（『平家物語』の研究）は、第6セメスターも連続して履修することが望ましい。

科目名：日本文学各論／ Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 その他

Semester：5 単位数：2

担当教員：神作 研一

コード：LB98805, 科目ナンバリング：LHM-LIT301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：江戸の雅俗

2. Course Title (授業題目)：Refined Literature and Popular Literature during the Edo Period

3. 授業の目的と概要：日本近世文学の全容と特質を視野に収めながら、特に雅文学を主たる対象としてその展開の種々相と達成を考える。和本(モノ)、翻字や注釈などの基本的な手続きを確認しながら、ジャンルの関係性にも配慮しつつ、江戸に即して実証的に解析する研究方法を学ぶ。基礎と応用を自在に往還して最新の近世文学研究を追跡し、文学とは何か/古典とは何かということと皆さんと一緒に考え、現代に生きる私たちにとってどんな意味があるのかをも探りたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Considering the entirety and characteristics of Japanese early modern literature, with a focus on the field of refined literature, students will explore the various aspects and achievements of its development. While solidifying foundational knowledge about Japanese books (as objects) and mastering the basic processes of transliteration and annotations, students delve into exploring relationships with other genres and examining the distinctive characteristics of the Edo period. Throughout this process, they acquire research methods that incorporate empirical analysis. We freely traverse between the fundamentals and applications, tracking the latest research in early modern literature. Together, we contemplate what literature/classics are. We also want to explore what significance that holds for us living in the present day.

5. 学習の到達目標：主たる目標は3つ。

- ① 近世文学の特徴を知り、研究上のさまざまな基礎知識を身につける【全体から個へ】
- ② 江戸に即して、作品を読解できるようにする【読むための研究方法の獲得】
- ③ それらを踏まえて、自分の頭で考え、自分の言葉で表現する【思考と表現】

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The primary goals are the following three.

- ① Understanding the characteristics of early modern literature and acquiring various foundational research knowledge [From the general to the individual].
- ② Grasping the characteristics of the Edo period, and a

7. 授業の内容・方法と進度予定：

【1】9/10 (火) 文学のちから/研究ということ/近世文学史の全体像

1. イントロダクション (シラバス確認・エチケット・課題レポート案内)
文学とは何か/古典の楽しみ/研究と評論/江戸に即して
2. ウォーミングUP
くずし字/干支・年表・異体字など工具書紹介/翻字と注釈
3. 日本近世文学の特質 (出版・雅俗と和漢・教訓と滑稽)
近世文学史の諸相 (上方から江戸へ、江戸から明治へ)

【2】9/11 (水) 近世和歌史/和本の楽しみ/歌書刊本

4. 近世和歌史概説 (前期・中期・後期)
主要参考文献紹介
5. 和本を見る・知る・さわる (古典籍のスキル)
はじめての古典籍/写本と刊本/本の身分 (表記と書型) /てのひらの江戸
6. 歌書いろいろ
刊記/歌書の刊・印・修
★課題レポート案内「レポートを書くために」

【3】9/12 (木) 多色摺り/歌仙絵/伝記

7. 多色摺りの発生と展開
二色套印本/詩箋/絵本と浮世絵
8. 歌仙絵の魅力
画譜・絵入り本・絵本/近世絵入り本研究の最前線
9. 西行への思慕
歌僧似雲/江戸の今西行/伝記研究の方法 (墳墓録ほか)

【4】9/13 (金) 古典学/狩野文庫渉猟/通信添削

10. 古典の継承
江戸の源氏学/幕臣たちの古典享受/伊勢・徒然・百人一首の近世的展開 (文化誌)
11. 東北大学附属図書館狩野文庫渉猟
狩野亨吉伝/蔵書印/〈知の宝庫〉に分け入る
12. 元禄の添削
地方と中央/江戸のみやび

【5】9/14 (土) 俳書/短冊/文学のちから

13. 俳書の変遷

おくのほそ道は栞型本／笈の小文／美濃派歳旦帖

14. 短冊を見る・知る・さわる

短冊の楽しみ／慶安手鑑／『短冊ものがたり』『短冊覚え書』『むかしをいまに』

15. まとめと展望

DB／目録学／分類と索引／日本古典文学研究の国際化／国文研／文学のちから

8. 成績評価方法：

レポート（60％）、折々に課すリアクションペーパー（20％）、授業への主体的な学び（20％）に基づいて、総合的に判断する。

9. 教科書および参考書：

適宜プリントを配布、参考書は随時紹介する。

10. 授業時間外学習：適切な予復習に努め、主体的に授業に参加すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

鉛筆（B）1本必携。授業前に石けんで手を洗っておくこと。

科目名：日本文学各論／ Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：仁平 政人

コード：LB61201, 科目ナンバリング：LHM-LIT301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：冷戦期文学の諸問題

2. Course Title (授業題目) : Study on Japanese Literature during the Cold War

3. 授業の目的と概要：本講義では、1940 年代後半から 1960 年代までの日本文学の諸相について、冷戦期という歴史的観点を変えて検討する。授業では太宰治、安部公房、三島由紀夫、大江健三郎、寺山修司などのテキストを、社会的・文化的な文脈を視野に入れて読み解くことを通して、文学と時代との多様な関係を考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This lecture will examine various aspects of Japanese literature from the late 1940s to the 1960s, including the historical perspective of the Cold War period. The lecture will examine the diverse relationships between literature and the times through readings of texts by Dazai Osamu, Abe Kobo, Mishima Yukio, Oe Kenzaburo, Terayama Shuji, and others, taking into account their social and cultural contexts.

5. 学習の到達目標：文学テキストを、社会的・文化的なコンテキストとの関わりを視野に入れて多面的に読み解く能力を養い、戦後の日本文学の特性や意義について理解を深める。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : To develop the ability to read and understand literary texts from multiple perspectives, taking into account their relationship to social and cultural contexts, and to deepen understanding of the characteristics and significance of postwar Japanese literature

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 敗戦後の言説空間—太宰治「トカトントン」を読む
3. 横断する戦争と「希望」—横光利一「微笑」
4. 安岡章太郎「ガラスの靴」を読む
5. 朝鮮戦争と文学—堀田善衛「広場の孤独」など
6. 安部公房と SF
7. 深沢七郎「檜山節考」と〈日本再発見〉の時代
8. 倉橋由美子「バルタイ」を読む
9. 大江健三郎の出発①
10. 大江健三郎の出発②
11. 核時代とフィクションの想像力—三島由紀夫『美しい星』を中心に①
12. 核時代とフィクションの想像力—三島由紀夫『美しい星』を中心に②
13. ベトナム戦争と文学—日野啓三「向こう側」など
14. 寺山修司の活動とその時代①
15. 寺山修司の活動とその時代②

(質問への応答、補足説明などによって、予定通りに進まないことがあります。)

8. 成績評価方法：

最終レポート (50%)・授業への出席 50%。毎時間提出するコメント用紙の内容も平常点の一部として加味する。

9. 教科書および参考書：

三島由紀夫『美しい星』(新潮文庫)

他のテキストはプリントで配布する。また、参考書等については教室で指示する。

10. 授業時間外学習：授業で取り上げる作品を事前に精読しておくこと。また、授業を通して関心を持った問題については幅広く参考文献を読み、考察を深めること。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

なし

科目名：日本文学各論／ Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰

コード：LB62201, 科目ナンバリング：LHM-LIT301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『平家物語』の研究
2. Course Title (授業題目)：Study on “The Tale of Heike (平家物語 Heike Monogatari)”
3. 授業の目的と概要： 平安時代末の内乱とそこに生きる人々の姿を多様な形質の表現によって描き出した作品、『平家物語』の記述を考察する。『平家物語』の表現を丁寧に読み解き、文学、文化、社会にかかわる多様な問題を見出す中で、『平家物語』の特質とともに、そこに現れる世界観、人間観、社会認識のあり方を明らかにして行く。毎回の授業の終わりに、授業内容について、考えたこと、関心を持ったことを書いてもらい（これを「小レポート」と呼ぶ）、その回答も交えて、できるだけ対話的に授業を進めて行こうと思っている。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this lecture, you will understand the characteristics of the description of “the Tale of Heike (平家物語 Heike Monogatari)”. And you will consider various significant problems of concerning literature and culture through reading the original of this classical tale.
5. 学習の到達目標：(1) 表現の細部を丁寧に捉えて、時代相、世相や筆者の世界観、人間観、社会認識を幅広く深く理解できるような読解力、洞察力を身につける。
(2) 文学、文化、社会を思考する上での問題発見力と専門的知識を高める。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students acquire knowledge and ability necessary to think about literature, culture and society creatively.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業は次の順に進める
 - 1 登場人物の形象の変移 — 源義仲に着目して —
 - 2 登場人物の形象の変移 — 平家の人々に着目して —
 - 3 歴史叙述と祝祭性 — 法住寺合戦をめぐる —
 - 4 戦いの表現が指向するもの — 卷第九「木曾の最期」より —
 - 5 表現の多様な可能性 — 卷第九「宇治川の先陣」より —
 - 6 戦いの表現が指向するもの — 一の谷合戦をめぐる —
 - 7 心の動きを語る物語 — 平維盛に着目して —
 - 8 心の動きを語る物語 — 平重衡に着目して —
 - 9 速さの表象とその意味 — 屋島合戦における源義経 —
 - 10 場面を演出するしくみ — 卷第十一「那須与一」より —
 - 11 事件を美化するしくみ — 平知盛に着目して —
 - 12 事件を美化するしくみ — 平宗盛に着目して —
 - 13 結尾部の記述が指向するもの — 建礼門院徳子に着目して —
 - 14 表現の運動性がもたらすもの — 源行家に着目して —
 - 15 まとめ
8. 成績評価方法：
学期末に提出してもらうレポート [60%]・小レポート [40%]
9. 教科書および参考書：
教科書は使用せず、プリントを使って授業を進める。参考書は、授業の中で随時紹介する。
10. 授業時間外学習： 授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし
本講義（『平家物語』の研究）は、第5セメスターから連続して履修すること。

科目名：日本文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：横溝 博

コード：LB51402, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『源氏物語』の研究

2. Course Title (授業題目) : Study of "The Tale of Genji"

3. 授業の目的と概要：『源氏物語』「桐壺」「帚木」巻を輪読する。担当者は割り当てられた範囲の【梗概】および【考察】をレジュメとしてまとめ、それを資料として用意し、事前に配布した上で発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、ブラッシュアップしていくことで、物語の読解力を高めていくことを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In this class, you will read the volume captioned 'Kiritubo' 'Hahakigi' in Genji Monogatari. The person in charge summarizes the [abstract] and [consideration] of the assigned range as a resume, prepares it as a material, distributes it in advance, and announces it. The aim is to improve the reading comprehension of the story by reviewing and brushing up the issues raised by the presenters with all participants.

5. 学習の到達目標：『源氏物語』「桐壺」「帚木」巻を精読することで、(1) 物語の虚構の方法や人物造型のありよう、語り、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2) 諸注釈、各種辞典(事典)類の活用の仕方を学び、作品読解に関わる基本的な知識を習得する。以上を通して、物語を「読む」力を高めることで、課題に研究的に取り組むための基本的な知識と技能を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : By carefully reading "Genji Monogatari" (Kiritubo Chapter, Hahakigi Chapter), students will deepen your understanding of the fictional method of the story, the way the figure is modeled, the style of expression including narrative and waka poems, and the s

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

1. ガイダンス (発表者及びローテーション決定)
2. 講義 (「桐壺」巻からの物語の流れ、第一部の構成、物語の人物について)
3. 「桐壺」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
4. 「桐壺」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
5. 「桐壺」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
6. 「桐壺」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
7. 「桐壺」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
8. 「帚木」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
9. 「帚木」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
10. 「帚木」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
11. 「帚木」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
12. 「帚木」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
13. 「帚木」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
14. 「帚木」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
15. 「帚木」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ

8. 成績評価方法：

授業時の発表および期末レポート (発表のまとめ) の内容 [60%]、授業への参加 (質疑応答を含む) [40%]

9. 教科書および参考書：

【テキスト】岩波文庫『源氏物語 (一) 桐壺～末摘花』(岩波書店、2017 年) を用いるので、大学生協等で購入のこと。

【参考書】中野幸一編『(新装版) 常用 源氏物語要覧』(武蔵野書院、2012 年) がある。その他、参考文献は随時紹介する。

10. 授業時間外学習：毎回の輪読箇所が決まっている上、資料が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲を熟読しておき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。授業での質疑応答は

ディスカッションやコメントのトレーニングとなるよう期している。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

- ・本演習は、第6セメスターも続けて履修すること。
- ・物語の展開を先取りせず、物語の筋をたどりながら読むことの面白さや発見、興味を大事にしていく。

科目名：日本文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：仁平 政人

コード：LB53203, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近現代文学における〈生き物〉表象
2. Course Title (授業題目)：Study on representation of "living things" in Japanese Modern Literature
3. 授業の目的と概要：本演習は、明治期から近年にいたる多様な小説について、〈生き物〉の表象（特に動植物に関する文学的表現）という観点を軸に、多様な社会的・文化的なコンテクストを視野に入れて分析を行うことを目的とする。受講者は、担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて発表する。発表内容を踏まえた全体での討論をとおして、小説の精緻な読解を試みる。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this exercise is to analyze various novels from the Meiji period to recent years from the viewpoint of the representation of "living things" (especially the literary representation of animals and plants) with a view to various social and cultural contexts. Students present the results of their analysis of literary works. We try to read the novel in detail through the discussion based on the presentation.
5. 学習の到達目標：(1) 文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。
(2) 日本近代文学の多様な展開とその特質について理解を深める。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To learn how to analyze, present and present literary works.
(2) To deepen students' understanding of the diverse developments and characteristics of Japanese Modern Literature.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この授業はオンラインで実施する。
 1. ガイダンス
 2. ガイダンス 2
 3. 担当者による口頭発表と討論
 4. 担当者による口頭発表と討論
 5. 担当者による口頭発表と討論
 6. 担当者による口頭発表と討論
 7. 担当者による口頭発表と討論
 8. 担当者による口頭発表と討論
 9. 担当者による口頭発表と討論
 10. 担当者による口頭発表と討論
 11. 担当者による口頭発表と討論
 12. 担当者による口頭発表と討論
 13. 担当者による口頭発表と討論
 14. 担当者による口頭発表と討論
 15. 担当者による口頭発表と討論
8. 成績評価方法：
授業における発表とレポート（70%）、授業への積極的参加（30%）
9. 教科書および参考書：
講義資料として、配布プリントを使用する。その他の関連文献は授業中に適宜紹介する。
10. 授業時間外学習：授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておくこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
本演習は第 6 セメスターも連続して履修すること。

科目名：日本文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰

コード：LB54205, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『今昔物語集』の研究
2. Course Title (授業題目)：Study on Konjaku Monogatari-shu (今昔物語集)
3. 授業の目的と概要： 文学、文化、社会を発見的に考究するためには何に注目し、どのような段階を踏んで思考を進めればよいのかということ、『今昔物語集』についての考察の実践を通して理解して行く。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will understand what to think creatively about literature, culture and society by practicing the study on Konjaku Monogatari-shu (今昔物語集) .
5. 学習の到達目標： 文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための読解力、分析力、専門的知識、表現力を高める。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students acquire knowledge and ability necessary to think about literature, culture and society creatively.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 『今昔物語集』についての解説
 - 2 『今昔物語集』についての解説
 - 3 『今昔物語集』についての解説
 - 4 『今昔物語集』についての解説
 - 5 『今昔物語集』についての解説
 - 6 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 7 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 8 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 9 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 10 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 11 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 12 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 13 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 14 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 15 考察発表とそれにもとづく意見交換
8. 成績評価方法：

授業時の発表およびレポート [60%]・授業への参加 [40%]
9. 教科書および参考書：

テキストは、特に指定しない。参考書は、授業時に随時紹介する。
10. 授業時間外学習： 各回で考察対象となる物語の記述をあらかじめよく読んで授業に臨むこと。また、授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
本演習（『今昔物語集』の研究）は、第6セメスターも連続して履修すること。

科目名：日本文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰

コード：LB64203, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『今昔物語集』の研究
2. Course Title (授業題目)：Study on Konjaku Monogatari-shu (今昔物語集)
3. 授業の目的と概要： 文学、文化、社会を発見的に考究するためには何に注目し、どのような段階を踏んで思考を進めればよいのかということ、『今昔物語集』についての考察の実践を通して理解して行く。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will understand what to think creatively about literature, culture and society by practicing the study on Konjaku Monogatari-shu (今昔物語集) .
5. 学習の到達目標： 文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための読解力、分析力、専門的知識、表現力を高める。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students acquire knowledge and ability necessary to think about literature, culture and society creatively.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 2 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 3 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 4 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 5 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 6 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 7 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 8 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 9 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 10 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 11 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 12 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 13 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 14 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 15 まとめ
8. 成績評価方法：

授業時の発表およびレポート [60%]・授業への参加 [40%]
9. 教科書および参考書：

テキストは、特に指定しない。参考書は、授業時に随時紹介する。
10. 授業時間外学習： 各回で考察対象となる物語の記述をあらかじめよく読んで授業に臨むこと。また、授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
本演習（『今昔物語集』の研究）は、第5セメスターから連続して履修すること。

科目名：日本文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：横溝 博

コード：LB61402, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『源氏物語』の研究

2. Course Title (授業題目) : Study of "The Tale of Genji"

3. 授業の目的と概要：『源氏物語』「空蟬」～「末摘花」巻を輪読する。担当者は割り当てられた範囲の【梗概】および【考察】をレジュメとしてまとめ、それを資料として用意し、事前に配布した上で発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、ブラッシュアップしていくことで、物語の読解力を高めていくことを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this class, you will read the volume captioned 'Utusemi' to 'Suetumuhana' in Genji Monogatari. The person in charge summarizes the [abstract] and [consideration] of the assigned range as a resume, prepares it as a material, distributes it in advance, and announces it. The aim is to improve the reading comprehension of the story by reviewing and brushing up the issues raised by the presenters with all participants.

5. 学習の到達目標：『源氏物語』「空蟬」～「末摘花」巻を精読することで、(1) 物語の虚構の方法や人物造型のありよう、語り、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2) 諸注釈、各種辞典(事典)類の活用の仕方を学び、作品読解に関わる基本的な知識を習得する。以上を通して、物語を「読む」力を高めることで、課題に研究的に取り組むための基本的な知識と技能を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : By carefully reading "Genji Monogatari" (Makibashira ~ Suetumuhana Chapter), students will deepen your understanding of the fictional method of the story, the way the figure is modeled, the style of expression including narrative and waka poems, and the st

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 「空蟬」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
2. 「空蟬」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
3. 「空蟬」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
4. 「夕顔」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
5. 「夕顔」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
6. 「夕顔」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
7. 「夕顔」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
8. 「若紫」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
9. 「若紫」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
10. 「若紫」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
11. 「若紫」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
12. 「若紫」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
13. 「末摘花」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
14. 「末摘花」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
15. 「末摘花」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ

8. 成績評価方法：

授業時の発表および期末レポート(発表のまとめ)の内容 [60%]、授業への参加(質疑応答を含む) [40%]

9. 教科書および参考書：

【テキスト】岩波文庫『源氏物語(一) 桐壺～末摘花』(岩波書店、2017年)を用いるので、大学生協等で購入のこと。

【参考書】中野幸一編『(新装版)常用 源氏物語要覧』(武蔵野書院、2012年)がある。その他、参考文献は随時紹介する。

10. 授業時間外学習：毎回の輪読箇所が決まっている上、資料が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。授業での質疑応答はディスカッションやコメントのトレーニングとなるよう期している。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、**実務・実践的授業**であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

- ・本演習は、第5セメスターから続けて履修すること。
- ・物語の展開を先取りせず、物語の筋をたどりながら読むことの面白さや発見、興味を大事にしていく。

科目名：日本文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

semester：6 単位数：2

担当教員：仁平 政人

コード：LB63207, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近現代文学における〈生き物〉表象
2. Course Title (授業題目)：Study on representation of "living things" in Japanese Modern Literature
3. 授業の目的と概要：本演習は、明治期から近年にいたる多様な小説について、〈生き物〉の表象という観点を軸に、多様な社会的・文化的コンテクストを視野に入れて分析を行うことを目的とする。
受講者は、担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて発表する。発表内容を踏まえた全体での討論をとおして、小説の精緻な読解を試みる。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this exercise is to analyze various novels from the Meiji period to recent years from the viewpoint of the representation of "living things" (especially the literary representation of animals and plants) with a view to various social and cultural contexts.
Students present the results of their analysis of literary works. We try to read the novel in detail through the discussion based on the presentation.
5. 学習の到達目標：(1) 文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。
(2) 日本近代文学の多様な展開とその特質について理解を深める。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To learn how to analyze, present and present literary works.
(2) To deepen students' understanding of the diverse developments and characteristics of Japanese Modern Literature.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
授業はオンラインで実施する。
 1. ガイダンス
 2. 担当者による口頭発表と討論
 3. 担当者による口頭発表と討論
 4. 担当者による口頭発表と討論
 5. 担当者による口頭発表と討論
 6. 担当者による口頭発表と討論
 7. 担当者による口頭発表と討論
 8. 担当者による口頭発表と討論
 9. 担当者による口頭発表と討論
 10. 担当者による口頭発表と討論
 11. 担当者による口頭発表と討論
 12. 担当者による口頭発表と討論
 13. 担当者による口頭発表と討論
 14. 担当者による口頭発表と討論
 15. 担当者による口頭発表と討論
8. 成績評価方法：
授業における発表とレポート (70%)、授業への積極的参加 (30%)
9. 教科書および参考書：
テキストとして配布プリントを使用する。その他の関連文献は授業中に適宜紹介する。
10. 授業時間外学習：授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておくこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
本演習は第 5 semesterから連続して履修すること。